

[成果情報名]丸抜きの緑色が濃く、そば切りの外観品質に優れるそば「長野 S8 号」

[要約] そば「長野 S8 号」は丸抜きの緑色が「信濃 1 号」より濃く、そば切りの外観品質に優れる。生態型は中間秋型で、生育期間は「信濃 1 号」より 3 日長く、耐倒伏性は同等である。収量性は「信濃 1 号」とほぼ同等で、千粒重は 2 割重く、容積重もやや重い。

[キーワード] そば、丸抜き、大粒、中間秋型

[担当] 長野野花試・畑作部

[代表連絡先] 電話 0263-52-1148

[区分] 作物、関東東海北陸農業・関東東海農業・水田作畑作物

[分類] 技術・普及

[背景・ねらい]

ソバの子実には玄ソバとも呼ばれ、黒褐色をした果皮、いわゆる殻に覆われ、これを取り除くと薄緑色をした種皮が現れる。この殻を取り除いた状態を「丸抜き」と呼び、製粉業者や製麺業者など実需者は丸抜きの緑色が濃いソバを高く評価している。

「信濃 1 号」は長野県内の主力品種で、本州全体で約 5,000ha 栽培されていると推定される。「信濃 1 号」の丸抜きは淡い緑色をして、風味や食味にも一定の評価を得ているが、実需者からは、さらに丸抜きの緑色が濃く、色調に優れるソバが要望されている。そこで、県産ソバの生産振興を図るために、丸抜きの色調に優れる「長野 S8 号」を普及する。

[成果の内容・特徴]

1. 「長野 S8 号」は平成 14 年に中信農業試験場(農林水産省ソバ育種指定試験地・現野菜花き試験場)において、耐倒伏性に優れ、子実の大きい品種の育成を目標に、「関東 1 号」を母、「信濃 1 号」を父に交配を実施し、個体選抜、系統選抜により育成した。(表 1)。
2. 丸抜きとそば粉の色は「信濃 1 号」より緑色が濃い(表 1、図 1)。
3. そば切りの食味官能評価は「信濃 1 号」より優れ、特に色の評価に優れる(表 1)。
4. 生態型は「信濃 1 号」と同じ“中間秋型”で、開花期、開花最盛期は「信濃 1 号」より 2 日、成熟期は 3 日遅い(表 1)。
5. 草丈は「信濃 1 号」より 8 cm 高く、主茎節数、1 次分枝数、花房数は同等である(表 1)。
6. 子実重は「信濃 1 号」とほぼ同等で、千粒重は 2 割ほど重く、容積重もやや重い(表 1)。
7. 耐倒伏性は「信濃 1 号」と同等である(表 1)。
8. 果皮率は「信濃 1 号」と同等、製粉歩留も同等である(表 1)。

[成果の活用面・留意点]

1. 栽培適地は標高 1,200m を超える高標高地帯を除く県下全域で、長野県で認定品種として採用して普及する。普及見込み面積は長野県 300ha である。
2. 本葉がアルビノ(白化)となり枯死する個体が 1～3% 出現するが、収量等に影響ない。
3. 他品種が近在する場合、交雑して互いの特性が変化するので、他品種と交雑を防ぐ体制をとることが可能な地域において、集団的に栽培を行う。
4. 栽培は「信濃 1 号」に準じて夏まき栽培で、長野県主要穀類等指導指針(平成 22 年 3 月)に従って行う。

[具体的データ]

表1 そば「長野 S8 号」の特性一覧

系統名	そば「桔梗8号」			来歴	関東1号/信濃1号				
特性	長所 1. 丸抜き子実の緑色が濃い 2. そば切りの外観品質に優れる 3. 千粒重、容積重が重い			短所	1. ルチン含量がやや低い				
採用予定県・普及見込面積	長野県・300ha								
試験地	長野県野菜花き試験場 (育成地:標高750m)			長野県富士見町 (現地:標高1000m)		作物研究所 (茨城県つくば市:標高25m)			
調査年次	平成19～24年			平成21～24年		平成21～24年 ^{注1)}			
系統・品種名	桔梗8号	信濃1号	関東1号	桔梗8号	信濃1号	桔梗8号	信濃1号	関東1号	
調査項目	単位・基準	(対照)	(参考)	(対照)	(対照)	(対照)	(対照)	(参考)	
播種期	(月/日)	8/5	8/5	8/5	7/29	7/29	8/24	8/24	8/24
開花最盛期	(月/日)	9/13	9/11	9/11	9/5	9/4	—	—	—
成熟期	(月/日)	10/14	10/11	10/13	10/7	10/3	11/2	10/29	11/3
生育期間	(日)	70	67	69	70	65	70	66	71
倒伏程度	(0:無-5:甚)	2.5	2.8	2.1	2.4	2.4	2.9	3.3	1.3
草丈	(cm)	118	110	108	96	97	94	92	90
主茎節数	(節)	11.1	10.6	10.4	9.2	9.3	—	—	10.3
1次分枝数	(本)	3.0	3.0	3.0	2.1	2.5	2.4	2.7	2.7
1株花房数	(個)	22.7	24.0	23.3	15.6	18.3	15.3	18.0	19.2
子実重	(kg/a)	18.0	18.7	15.3	10.3	10.8	12.7	12.8	14.7
同上対照比	(%)	96	100	83	95	100	100	100	130
容積重	(g)	607	593	601	611	604	—	—	677
千粒重	(g)	36.8	30.7	36.5	33.3	28.3	38.5	31.4	40.7
果皮率	(%)	22.3	22.5	22.0	23.7	24.0	—	—	—
丸抜き子のa*値 ^{注2)}	—:緑~赤:+	-3.20	-1.01	-0.03	-2.69	-0.25	-2.94	-1.34	-0.11
そば粉のa*値 ^{注2)}		-0.89	-0.33	-0.18	-0.73	-0.11	-0.93	-0.43	-0.20
官能評価(合計) ^{注3)}	日本蕎麦協会 方式(1989)	77.9	70.0	—	—	—	—	—	—
官能評価(色) ^{注3)}		17.1	14.0	—	—	—	—	—	—
製粉歩留 ^{注4)}	(%)	75.0	76.3	—	—	—	—	—	—
ルチン含量 ^{注5)}	(mg/100g)	6.5	9.8	—	—	—	—	—	—

注1)参考は平成22, 24年のデータ

注2)作物研は平成21年産のデータ

注3)平成20～22年産のデータ(パネラー数は平成20年産:26名、平成21年:40名、平成22年:22名)

注4)平成22, 23年産のデータ、ブラバンダー製粉による

注5)N社で平成20～23年産を計測したデータ

注6)ーは未計測

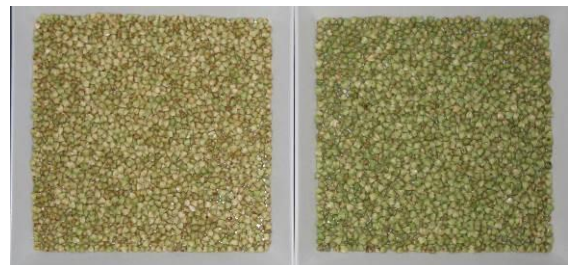
[その他]

研究課題名：温暖地、中部高冷地向け高品質、安定多収、機械化適性そば品種の育成、および畑作物の品種育成に関する素材開発研究

予算区分：指定試験、および県単素材開発

研究期間：2002～2010年度、および2011年度

研究担当者：丸山秀幸、岡本潔、村山敏、矢ノ口幸夫、松永啓、矢ヶ崎和弘



(野菜花き試験場)